

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は「地域とのつながり、直接体験の重視」を活動テーマとして、E S Dをユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすことを柱とし、E S Dの実践を通して「人」とのつながりから、共生社会の生き方について考える力の育成を目標とした。環境・エネルギー、地域遺産・世界遺産、人権・福祉を柱に、①持続可能なまちおよびライフスタイルに係わる学習、②身の回りの環境および防災に係わる活動、③地域の文化遺産に係わる学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 「心をつなごう」持続可能なまちおよびライフスタイルに係わる学習

福祉教育との関連から、3年生では、点訳ボランティアの方や目の不自由な方、耳の不自由な方との交流を通して、苦労や努力、工夫や願いを知り、目や耳の不自由な方と共に生きるためのまちづくりやユニバーサルデザインなどについて調べる学習を仕組んだ。この学習を通して、みんなが安心して暮らせるようにできることを考え、いろいろな人と進んでかかわりを持とうとする気持ちを育てることができた。



○ 身の回りの環境および防災に関わる学習

4年生では、自分たちの生活の中らごみ処理やリサイクルについての課題を見つけ、日常生活で出てくるごみを減らすためにできることについて調査活動を行い、ごみを減らす

ための工夫を考え、行動を具体化するために、プログラミング的思考を働かせ、生活にいかすことができるように学習を仕組んだ。この学習を通して、環境問題を自分事として考え、自分にできることを実践し意欲を高めることができた。

5年生では、防災危機管理室の方の自然災害に関する講話を聞き、防災学習を行った。災害に備えるための知識を学んだり、地域の方も一緒にワンタッチパーテーションと簡易ベッドの組立て設置など体験したりした。



○ 地域のよさ文化遺産、地域の「人」とのつながりに係わる学習

4年生では、「花いっぱいプロジェクト」を通して、校区のまちづくり協議会の方を中心に連携して、地域とのつながりを意識することができた。また、GTの方々と「史跡巡り」を行ったことで郷土への愛着が高まり、地域の方々への感謝の気持ちを一層もつことができた。

6年生では、大牟田や荒尾の近代化遺産について調べたいことの学習計画を立て、自分が選んだ大牟田・荒尾のよいところについて調べ学習を行った。また、GTの方から話を聞いて近代化遺産を見学し、郷土のよさに気づいたり郷土を愛する心情を育てたりできるようにした。さらに、近代化遺産を守る取組やよさを知らせるための努力について調べ、パンフレットや本などの資料から調べたことを、イラストマップやプレゼンテーション等でまとめた。また、修学旅行を通して長崎に落とされた原爆の恐ろしさや、平和の尊さを学び、自分の考えについて新聞づくりを通して発信した。



3 今後の活動計画

令和8年度は、ESDにおいてさらに、「価値観の変容」「行動化」を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 児童の実態を把握し、身につけさせたい資質・能力、具体的な子どもの姿を明確にしながら、子ども達の主体的・探究的な学び（課題設定→情報収集→整理分析→行動・発信・振り返り）を推進する。
2. 各教科・領域等で身につける内容を生かし、子ども達が自分事として問題に取り組むためのストーリーマップを作成し、教職員で共通理解・共通実践できるようにしていく。
3. 身の回りのことから視野を広げ地域とつながりができるように、ICTを活用して実践事例を蓄積していく。